

(4) 子どもの主な参加行事や遊び場

1) 主な参加行事

ア 採録した行事

- ・ 伝統行事 亥の子 (イノコ)、おひちやさん、獅子舞 (口取り又は後舞)、天王さん、灯籠送り、花祭り、百万遍・がんがんだいし、盆踊り、虫送り、山の神のどんど焼き
- ・ 手伝い 馬の砂かけ、寺の盆の階段の飾りつけ、宮さんの掃除、夜回り (夜警、火の用心連呼)
- ・ その他 じょうざの鉢、度胸試し・肝試し、日曜学校



イ 主な行事の状況

当時の子ども達は、どういった地域行事に参加したのかを聞き取りしたものであり、「亥の子」や冬の夜に火の用心を呼びかける「夜回り」をはじめ計 18 種を採録した。

それらは昔からの伝統行事や大人達の行事手伝い等であり、主なものは次のとおりである。

- ・ 亥の子 (いのこ)
毎年 11 月頃に多くの集落で行われた子どもの行事で、子ども達が新婚や新生児のいる家を回り、亥の子の歌を歌いながらそれぞれが藁を束ね 80cm 程としたもので地面をたたくものである。また、一部の集落では「亥の子石」と呼ばれた中央が窪んだ重い石を藤弦等で巻き、それを 7~8 名の子どもが縄をくくりつけひっぱり上げ地面に落とすことを繰り返した。
- ・ 獅子舞 (の口取り又は後舞)
農山村の伝統芸能でもあり獅子頭が伝わる限られた集落において、子ども達は踊り子としてその口取りや後舞の役を担った。
- ・ 百万遍 (ひやくまんべ・ひやくまんべん)・がんがんだいし
村の寺院で、鎮魂・追善・豊穰・除災などを目的として行われた行事で、大きな輪となった大数珠を念仏を唱えながら回した。
- ・ 虫送り
農作物の害虫を駆逐し、その年の豊作を祈願する目的で行われた農村部の伝統行事で、松明や藁を焚いたりして、歌を歌いながら地域を歩いた。
- ・ 山の神のどんど焼き (わら集め・わら焚き)
年末などに農作業の安全無事と村人の家内安全・無病息災を祈願して行われた行事で、藁を集め、それを焚き、集落によってはそれを利用して餅を焼いたりもした。
※ 採録した呼び方 どんど焼き、とんと焼き、どんどん焼き
- ・ 夜回り (火の用心)
空気が乾燥する冬季の夜などに行われた行事で、拍子木を打ち鳴らし火の取り扱いの注意を呼びかけながら村内を徒歩で巡回した。

2) 主な遊び場

ア 採録した遊び場所

子どもの昔の遊びに関連して、当時の子ども達は、どういった場所で遊んだのか聞き取りしたものである。当時は、いたる所が様々な遊びに利用されていたことが伺われる。

区 分	場 所
自然の場	山 (林・はげ山を含む)、川 (小川・川・川原)、ため池
神社・仏閣等	寺、神社 (宮さん・跡地を含む)、不動さん、観音さん、地藏さん、天王さん、山の神
他の建物	くらぶ (公民館)、倉庫、分校、家の庭 (かいど、かど)
その他	道、空き地 (広場)、田 (回り)、畑

(5) その他の遊び

本調査で併せて採録した他の遊び（呼び方）として次のものがある。

1) 全国共通の（呼び方の）遊び

① かくれんぼ

ア 遊びの概要

オニを一人決め、その者が目を閉じ一定数を数えている間に他の者が隠れ、オニがそれを見つける遊び。

イ 採録した呼び方

- ・ かくれんぼ

ウ その他

鬼ごっことかくれんぼは、同じであるとする集落がみられた。



② 汽車ごっこ又は電車ごっこ

ア 遊びの概要

結んで輪にした縄や紐の中に数名が入り、汽車や電車の様子や音をまねながら先頭の人が引っ張るように進んでいく主に年少児童による遊び。

イ 採録した呼び方

- ・ 汽車ごっこ、汽車ポッポ、ポッポ遊び、電車ごっこ

ウ その他

「ポッポポポー、ガシャゴン、ガシャゴン、ポーポッポー」等と言いながら遊んだという集落がみられた。

③ ちゃんばらごっこ

ア 遊びの概要

木の枝を加工し刀に見立て、集団で侍の切り合いの真似事をする男児の遊び。

イ 採録した呼び方

- ・ チャンチャラバン、チャンバラごっこ

④ 兵隊ごっこ・戦争ごっこ

ア 遊びの概要

木や竹で鉄砲状のものを作り、二組に分かれ、突撃ラッパの音を真似て出しながら戦いのようして遊ぶ男児の遊び。

イ 採録した呼び方

- ・ 戦争ごっこ、兵隊あそび、兵隊ごっこ

⑤ 輪回し

ア 遊びの概要

ゴムを取り除いた自転車の車輪や竹・木などでできた小さな輪状のものを棒で押し回して走らせる遊び。

イ 採録した呼び方

- ・ 車輪遊び、竹の輪回し、輪回し（ワマワシ、ワーマワシ）

ウ 呼び方の状況

郡内では広く「輪回し」と呼ばれたようであるが、使用する素材によって、いくつかの呼び方がみられた。

⑥ 石や瓦を蹴る遊び

ア 遊びの概要

自分の石や瓦を蹴り、他の（人の）ものに当てたり、離れた所に描いた円や四角の枠内に少ない蹴り数で入れたりする遊び。

イ 採録した呼び方等

- ・ 石を蹴る アゲ、石蹴り
- ・ 瓦を蹴る 瓦蹴り、瓦遊び

⑦ 野球

ア 遊びの概要

二組に分かれ、ボールを打ったり捕ったりする現在と同じ内容のもので、少人数で敷地が狭いと塁を減らして三角形の塁で行われた遊び。

イ 採録した呼び方等

- ・ 三回転（ホームと1、2塁とする野球）
- ・ 野球、四回転（ホームと1～3塁で行う通常の野球）
- ・ 竹野球（長短の竹をボールとバットとして行う野球）

ウ 呼び方の状況

当時には子ども達の間では一般化していたようであり、亀山市関町市瀬で2塁のない三角ベースとして「三回転」、通常のものとして「四回転」を採録した。

また、亀山市下庄町で長短2本の竹をバットとボールとして使う遊びとして「竹野球」がみられた。

⑧ その他

その他、次のものも同名で採録したが、郡内全域での遊びであったとみられる。

- ・ 影踏み（月影を踏む、日影を踏む）、かるた、こっくりさん、竹とんぼ、だるまさんがころんだ、とおoryんせ、花一匁、羽根つき、ハンカチ落とし、ポコペン

2) 地域にあるものを用いた遊び

① 木や竹、植物での遊び

ア 遊びの概要 地域にある木や竹、植物を用いた遊び。

イ 採録した呼び方等

- ・ ウマ（ウラジロの葉を置き、反った所を押さえて、急に離して葉が跳ねあがりひっくり返す）
- ・ 木登り、竹登り（木や孟宗竹といった太い竹に登る）
- ・ 首飾り、首飾り作り（リュウノヒゲの実やジュズダマの実で首飾りを作る）
- ・ 笹舟（笹の葉を折って小舟を作り、水に浮かべ（競争す）る）
- ・ 椎の実ひろい
- ・ ヌヌダケ（5月頃に細い竹の新芽を折り、被った竹の皮をはぐと、薄く紙状の物が竹の周りに残る。そこを口にくわえ、うまく息を吹いて音を鳴らす）
- ・ レンゲ摘み（田の畔などに咲いたレンゲの花を摘み、冠等を作る）

② 川での遊び

ア 遊びの概要 川にあるものを用いた遊び。

イ 採録した呼び方等

- ・ 石跳び（川原で石伝いに跳んでいく）
- ・ ドッチンバッチン取り（「ドッチンバッチン」と呼んだ川に咲く蓮に似た茎系の植物を水中に潜って取る）

③ 土手をすべる遊び

ア 遊びの概要 竹などを利用して川の土手などの斜面を滑り降りる遊び。

イ 採録した呼び方

- ・ 草スキー、スキー、竹スキー、土手遊び、土手すべり

④ 氷をすべる遊び

ア 遊びの概要 田んぼに張った氷の上で滑る冬の遊び。

イ 採録した呼び方

- ・ 氷すべり

⑤ 貝殻を使った遊び

ア 遊びの概要 食後に残った貝殻を使った遊び。

イ 採録した呼び方等

- ・ 貝すき (大きな貝殻で、シジミなどの小さな貝殻をすくいあいをする)
- ・ シジミ (シジミの貝殻を集め、両手で撒き、うつ伏せが多い方が勝ちとする)

⑥ 石垣を使った遊び

ア 遊びの概要 地域にある石垣の比較的大きい隙間に、少し離れた所からお手玉程度の大きさのものを投げ込む遊び。

イ 採録した呼び方

- ・ ネッチ

⑦ 割れ皿を使った遊び

ア 遊びの概要 テンヨ (=皿) のかけらで、崖から取ったいくつかの色の岩をずべた (=地面) へ押しつけすべすべな状態にする遊び。

イ 採録した呼び方

- ・ スベ

⑧ 輪ゴムを使った遊び

ア 遊びの概要 輪ゴムを散らした後、息を吹きかけその重なりを作り、上の方の輪ゴムを交互に取りあう遊び。

イ 採録した呼び方

- ・ ゴム取り

⑨ 空き缶を使った遊び

ア 遊びの概要 糸電話と同様で、空き缶を使い針金や紐で結び、電話の真似事をする遊び。

イ 採録した呼び方

- ・ 電話ごっこ

3) 広場での遊び

① 8の字状等の通路を使った遊び

ア 遊びの概要 5人程度の2組でするもので、地面に8の字やSの字状の細い通路を描き、端に設けられた安全地帯からその通路を妨害を乗り越え通過し、外に出ていく等する遊び。

イ 採録した呼び方

- ・ エスカン、宝踏み、8の字

② 柵を描いての遊び

ア 遊びの概要 遊びに応じて柵目を描き、ボールや石を使ってする遊び。

イ 採録した呼び方等

- ・ ゲンダイ (広場で柵を描いての遊びで、日の字型の四角い柵を描いて柔らかいゴムボールを一度ずつ弾ませて打ち合う)
- ・ チッパ (升目と石を使った遊び)
- ・ 幅跳び (:ハバトビ 多くの柵目を一定のルールで跳んでいく)

③ 物を隠し、見つける遊び

ア 遊びの概要 オニが見つけ役となり、他の者が隠したものを見つける遊び。

イ 採録した呼び方等

- ・ 糸隠し (糸切れを隠す)
- ・ 下駄隠し、下駄取り (下駄を隠す)

- ・ ごみ隠し (小さなゴミを隠す)
- ・ セルロイド隠し (いくつかの色のセルロイド片を隠す)
- ・ 草履隠し、草履取り (草履を隠す)

④ 追いかけあいの遊び

ア 遊びの概要 二組、又はオニとその他に分かれ、地域にある建物や道を利用した追いかけあいをする遊び。

イ 採録した呼び方等

- ・ 堂回り (: ドーマワリ お寺の鐘撞堂の周囲で追いかけあいをする)
- ・ 泥巡 (: ドロジュン 泥棒とそれを追いかける巡査の二組に分かれ、村中を使って追いかけあいをする)

⑤ 軍隊の階級を使った遊び

ア 遊びの概要 軍隊の階級を使い、それを書いたカードを分けて持ち、出会ったらそれを見せ合い勝ち負けを争う遊び。

イ 採録した呼び方等

- ・ コーゲン (: 行軍 大将、戦車、大佐、歩兵等の軍人階級等の役割を示す札を持ってランダムに動きまわり、出会った人同士で札を出しあい、勝った方はそのまま続け、負けた方が戦外となる、多く残った方が勝ちという遊び)
- ・ ねまき取り (兵隊ごっこ的一种で、子ども達の間で大将から兵隊までの5つ役割を決め、それぞれの階級章である紐を首などにかけ、取り合う遊びで、大将は赤、黄、黒の三色の紐を巻き、兵隊は赤い紐をかける)

⑥ 動物に関係した遊び

ア 遊びの概要 動物役とそれ以外に分かれ、一定のルールで追いかけあい等をする遊び。

イ 採録した呼び方等

- ・ キツネごっこ (キツネ役1名とキツネを遊びに誘う数名とに分かれて言葉を掛け合い、最後に逃げたキツネを追いかけるという屋外での遊び)
- ・ イタチごっこ (遊び方不明)

4) じゃんけんの出し手に関係した遊び

ア 遊びの概要 じゃんけんの出し手を利用したもので、親が声を出しながらいずれかの出し手を出し、子が同じものを出したら負けで、子が勝ち手を出せば、役割が入れ替わる遊び。

イ 採録した呼び方等

- ・ グーニュッパ (親が「グーニュッパ」と言って、グー・チョキ・パーのどれかを出す)
- ・ チッスホッス (グーが「グッス」、チョキが「チッス」、パーが「パッス」と言う)

5) その他の遊び

ア 採録した呼び方等

- ・ ウグイス捕り・ホジロ捕り・メジロ捕り それぞれの鳥を捕ること。
- ・ 下駄飛ばし (履いている下駄を遠くへ飛ばすことを競い合う遊び)
- ・ 軍人合わせ (軍人の階級を書いたカードをめくりあつての遊び)
- ・ セッキヤク (: 隻脚 片足状態で肩で押し合うもので、例えば左足で立つ場合、右足を左足の後ろに折り左手でその親指を持ち、右肩で押し合う遊び)
- ・ たすき取り
- ・ テーキュー (: 庭球 柔らかいゴムボールを使っての遊び)
- ・ トク・フク・サイワイ・ピンボー・カネモチ・シンショー (: 徳・福・幸・貧乏・金持・新?) (出世を競う遊び)
- ・ トンビ (新聞紙で作る先端部を折った紙飛行機を飛ばす遊び)
- ・ ぼんさんがへをこいた (「だるまさんがころんだ」と同じで、親が目を閉じ十を数えている間

に子が進む遊び)

- ・ むさし、むさし遊び (イギリス国旗模様の一種の将棋で、国旗状の図を書きその接点に置いた石を動かし、一定の置き方になると相手の石を取ることができるという遊び)
- ・ 呼び方不明 (オニを除き、全員がそれぞれの片手を (オニが人差し指を入れることができるよう) 中を空けて軽く握り前に出し、オニが「茶壺、茶壺、茶 (又は 田) の中の壺をけつとけつからかして、めんぼく、さいぼく、漆のたねやか、いやまか、ずんべらぼう」と言って、人差し指を順に突っ込みながら、最後に手に人差し指を入れられた人が次のオニとなって繰り返す遊び)

6) その他

① 青年が夜に若い女性宅を回り歓談をする風習

子どもの遊びの調査をしていく中で、当時の青年男子が夜に近隣の若い女性のいる家などを複数で訪れ、両親等の許可の下、世間話をして帰るといった風習の話がみられたことから、併せてその有無等について聴き取りをした。

ア 採録した呼び方

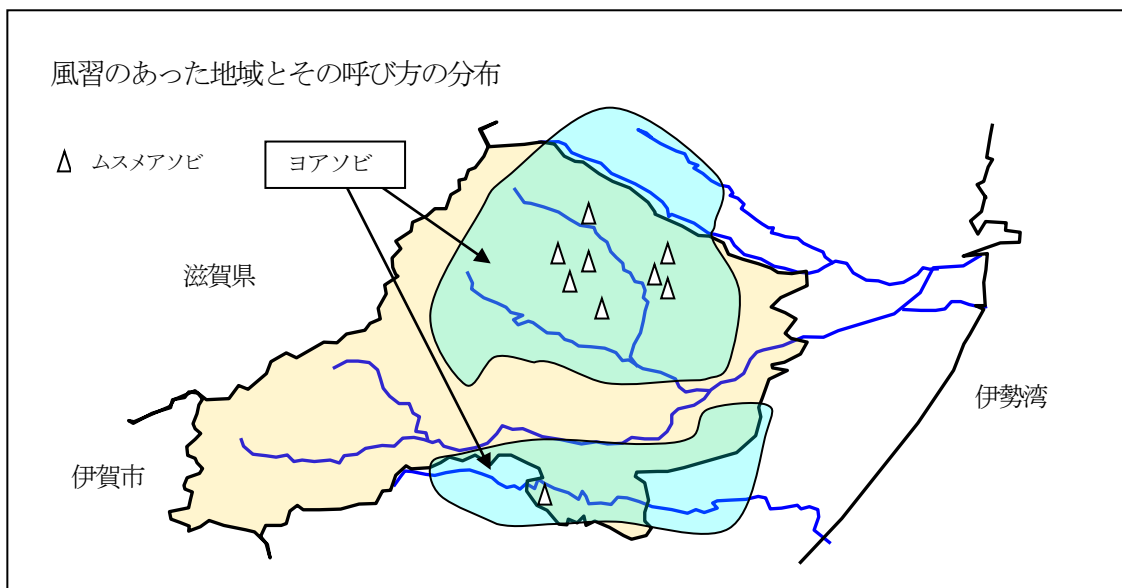
- ・ ムスメアソビ (娘遊び)、ヨアソビ (夜遊び)

イ 風習と呼び方の状況

東海道沿いの集落を除き、少し外れた鈴鹿山麓の集落や鈴鹿川南岸・中ノ川流域の集落ではかつてはこうした風習があり、広く「ヨアソビ」と呼ばれるとともに庄内地区から深伊沢地区を中心に「ムスメアソビ」とも呼ばれた。

こうした風習は、当時までになくなった集落もあれば、太平洋戦争前後になくなっていったようである。

なお、一部の集落では昭和20年代の後半ごろまで残っていたという。



※ 季節変化に伴う自然との関わり等、及び遊び方の補足

1) 季節変化による自然との関わり主な遊び

一連の聴き取りの中で、子ども達の遊びに関して、季節の変化や自然との関わりに関するものは次の通りであった。

時期	主な関わり	主な遊び
・1月	—	凧揚げ 氷滑り 杉鉄砲
・2月	—	
・3月～4月	タニシ拾い	川遊び リュウノヒゲや南天の実を使った竹鉄砲作り
・5月	ワラビ採り	
・7月	ホタル狩り	
・8月	セミ、カブトムシ、クワガタムシ、魚捕り	
・10月	茸狩り（里山）	
・11月 ・12月		

2) 遊び方の補足

ルール等の具体的な説明があったいくつかの遊びについて、ここにその内容をまとめる。

① 独楽回し

○個人で行う綱渡りや肩掛けのほか、数名又は集団で行う2つの遊び方がみられた。

- ・地面上で独楽同士を喧嘩させながらより長い時間回転させる。
- ・独楽回しのレース

子どもの数に応じて2組又は数組に分かれる。

村内で周遊ルートを設定する。

独楽を手のひら上で回して、回っている間のみ走ることができる。

（手のひらの上で回すことができない子どもは、大きめの空き缶のふたを持ちその上で回す。）

リレー方式で、早く全員が周遊ルートを回った組が勝ち。

② めんこ

○次の6種の遊び方を採録し、そうした遊びの呼び方も集落により異なる場合がみられた。

ア 地面に投げつけての遊び方

- ・裏返す（「カエシ」「メクリ」等）
- ・潜り込む（「トコ」「スカシ」等）
- ・線外に出す（「ダシ」等）、
- ・重なった状態のものを分ける（「ヌキ」、「ハナシ」）
- ・離れた状態のものを重ね合わせ（「ヒツツケ」）
- ・隣接するように足を置き、たたきつけによっておこる風で靴に向かって起こす（オコシ）

- ・袖であおって風を送り裏返したりするずい技を「アオチ」と呼ぶ集落もみられた。
- ・本気である場合を「ホンコ」、そうでない場合を「ウソコ」と呼ぶ集落がみられた。
- ・めんこを裏返りにくくするよう、それ自体を重くするために油をしみこませたり、ロウを塗ったりする（ロービキ）、また穴を開け空気が抜けやすくする（アナアケ）等の工夫もよくされたようであった。そのため、「ロービキ、アナアケなーし」をルールとしている集落もみられた。

イ 見せ合いをしてお遊び方

- ・表に図柄として描かれた「庄屋」>「鉄砲」>「キツネ」で、じゃんけんのような三すくみの関係にし、見せ合いをし、勝ち負けを競う。

③ 水雷艦長「クチスイ」（川崎地区）

- じゃんけんのような三すくみの関係を利用して、2組のチームで全員が入り乱れながら相手の大将をやっつけるか相手の陣地に入れば勝ちとする遊び。
- ・大将を「たい」（大将）と呼び一人、「くち」（駆逐艦）数名、「すい」（潜水艦）数名で行う。
「たい」は「くち」に勝ち、「すい」に負ける。
「くち」は「すい」に勝ち、「たい」に負ける。
「すい」は「たい」に勝ち、「くち」に負ける。
「たい」と「くち」がいれば、「すい」が来ても負けない。

③-2 水雷艦長「ジライタイショウ（：地雷大将）」（汲川原町）

- ・地雷、大将、兵隊、工兵の4つに分かれ2組で争う。
地雷は大将、兵隊に勝ち、工兵に負ける。（最も強い）
大将は兵隊、工兵に勝ち、地雷に負ける。
兵隊は工兵に勝ち、他に負ける。
工兵は地雷に勝ち、他に負ける。

④ 「クギサシ（：釘刺し）」

- 長い釘を地面に刺しての遊び。
- ・クギサシ（通常）：二人で行い、相手を巻き込むよう幾重にも巻き、出られないようにしたら勝ち。投げた釘が地面に刺さり立っていれば、再度続けてできる。刺さったところへ直線で結び、通路をできるだけ狭くする。線上に刺すと、通路を閉ざすこととなる。
巻き込まれた方は、細い通路を同様に直線でつないで出ていく必要があるとともに、外側の線上に刺すと線を切ったこととなりその外側に出ることができる。（通路を閉ざされると、同様に線上に突き刺し、出ていくほかない。）
 - ・クギタオシ：地面に刺さっている相手の釘を倒す（また、倒れている釘に当てる場合もあり）もので、それを倒して、倒した方が地面に刺さって立っていれば勝ちとなる。難易度を上げ、倒した相手を一定の距離以上（例：5cm）飛ばさないことには勝ちとしない場合もみられた。

⑤ 「カンケリ（：缶蹴り）」

- 空き缶を使つての遊び。
- ・空き缶を蹴つてより遠くへ飛ばした方が勝ちとする。
 - ・かくれんぼをするもので、空き缶をオニの起点とする。

⑥ 「イシケリ（：石蹴り）」

- 身近にある小石を蹴つての遊び。
- ・地面上に大小の円や樹を書き、そこに石を蹴つて入れながら、できるだけ早く（少ない蹴り数で）ゴールに着いた方が勝ちとする。（片足跳びでする場合もあり）
 - ・折り返し場所を決め、石を蹴りながら折り返し点を回って早く帰ってきたら勝ちとする。
 - ・数名で行い、互いの石を狙って蹴り当て合うもので、自分の石で他方の石に当てたら勝ちとする。

⑦ 「カワラケリ（：瓦蹴り）」

- 身近にある割れた瓦を使つての遊び。
- ・小さな瓦の切れ端を立てて、3m程度離れた所に立てた瓦の切れ端目がけて蹴り、より多く当てた方が勝ちとする。

⑧「ジュータケ（：十二竹）」

○十二枚の竹べらを使っての遊び

- ・竹片 12 枚を使い、それぞれに 1 月から 12 月と書き込み（竹の内側の白い部分に数字を書く）、手のひらに持ち、軽くほうりあげ、手の甲で受ける。相手と二人で行い、5 回勝負（適宜回数を決める）で合わせて大きい数字を落としたほうが勝ちで、竹の数字が見えるように落ちないとそれは零点となる。

⑨「ゾーリカクシ（：草履隠し）」

○履いている草履を使った遊び。

- ・参加者全員が片方の草履を出し、各草履に指さしながら「草履隠しの歌」を歌い終わった所にある草履の人は草履をはくことが出来る。これを繰り返す、最後に残った草履の持ち主がオニとなる。オニ以外の人は、自分の草履の片方を隠し、オニが探す。

⑩「エスカン」（亀山市中庄町）

○5 人から 10 人程度で二組に分かれて S 状の通路で通って戦う遊び。

- ・地面に大きな日字を書き、そこに S 状の通路を設け、そこを通過して外に出ることを目指す。通路の両端に安全地帯を設け、そこに分かれて入り、互いに相手チームの通路の通過を邪魔しあうことから、それをいかに上手く通路を通りぬけるかが勝敗となる。途中押されて、通路の線の外に出たらその人は終わり。うまく押し出されずに回りこんで外に出たらケンケンをして、同じように外に出た相手チームの人と押しあいをする。両足をついたら負け。守りのグループは、押し出して通さないようにする。（相手を通路から出すのに自分自身も出てしまうことを「自爆」といった。）

⑪ 竹野球（亀山市下庄町）

○竹を使っての野球形式の遊び。

- ・4 名～8 名の偶数名で 2 組に分かれて、20cm と 50cm 程度の長さの竹を使い、長い方の竹で短い方を打ち、守っている相手が取れば点数を与えて、多い点数の方が勝ちとする。
- ・竹の打ち方として 3 つあり、難易度により点数が異なる。難しいのを受けると点数が高い。
 - a 短い竹をそのまま置き、長い竹で打つ。 簡単（低点数）
 - b 短い竹を吊るしておいて長い竹で打つ。 比較的簡単
 - c 短い竹を一定の角度で立てかけ、高い方を長い竹で叩き、跳ねて上がったところを再度長い竹で打つ。 難しい

⑫「ゲンダイ」（鈴鹿市八野町、上田町）

○柔らかいゴムボールを手のひらで打ち、地面に弾ませての遊び。

- ・地面に一定の大きさの「日」の字を書き、二人がその枠の中に其々入り、柔らかいゴムボールを自分の枠内で一度弾ませ、相手の枠内にも弾ませるように手のひらでボール打ちあうもの。
- ・相手は自分の枠内で一度弾んだボールを、もう一度自分の枠内で弾ませて、同様に相手の枠内で弾むように手のひらでボールを打ち返す。これを繰り返す、うまく打ち返せなかった方が負けとするもの。打ち返しにくい四隅で弾むよう狙ったり、より小さな弾みが行くように打ち返したりする。

※ 昭和 40 年代であるが、「田」の字型の場所で 4 人でする場合があり、井尻町では「ゲンダイチュウショー」と呼ばれた。

⑬ 地面での陣取り

○地面に大き目の円又は四角を描き、その内側で手のひらを回して得られる半円ほどの小さな陣地を起点に、じゃんけん等で陣地を増やしていき、より大きな陣地を獲得することを競いあう遊び。

主に次の3つの遊び方がみられた。

- ・ジャンケンで勝てば、同じように手のひらを回してえられる面積分を自分の陣地として増やしていくもの。その模様がウロコのようにみえることから「ウロコトリ」とも呼ばれた。
- ・ジャンケンで勝った場合で、パーで勝てばパーで、グーで勝てばグーで、チョキで勝てばチョキで扇状に回して陣地を増やしていく。
- ・自分の陣地から小石を弾き3回で戻ることができれば、その囲まれた部分の面積を自分の陣地に加えることができ、それを交互に行う。

また、円の中のどこかに毛糸などを分からないように埋めておき、陣を増やしていく中で、それを早く見つけたら勝ちとしていた集落もみられた。

⑭ 「キツネごっこ」(東庄内)

○キツネ役1名と他の数名とに分かれてする遊び。

次の掛け合いをしながら遊ぶ。

他) ひと山越えて、ふた山越えて、深山(みやま)の奥に、ちょっと灯(ひ)が見えた。キツネさん遊ぼか？

キ) まだ、キツネ寝とるわ(姿を隠したキツネ役が答える)

他) あっおーそいな、おーそいな(と言って戻っていく)

他) ひと山越えて、ふた山越えて、深山の奥に、ちょっと灯(ひ)が見えた。キツネさん遊ぼか？

キ) まだ、ちょう使とるわ(姿を隠したキツネ役が答える) (※ちょう:朝水(ちょうず)を使う=顔洗う)

他) あっおーそいな、おーそいな(と言って戻っていく)

他) ひと山越えて、ふた山越えて、深山の奥に、ちょっと灯(ひ)が見えた。キツネさん遊ぼか？

キ) 今、ご飯は食べとるわ(姿を隠したキツネ役が答えると、キツネ役が逃げる)

他) あっおーそいな、おーそいな 追わえたるか(と言って追わせる)

みんなで追わえて、キツネの背中にタッチしたものが「とったー」と叫ぶ。

その者が、今度はキツネ役となり、繰り返す。

※ 「ジャンジャンノモモコ」(一身田(郡外))

○オニ1人に対し、親とその数名の子どもで行い、親が背にした子どもをオニに触らせないように守る遊び。

- ・子は親の背に離れず列を成すようにつき、親はオニに向かって両手を広げ、子どもに触らせないようにオニに合わせて動き回り子どもを守る。子は親の動きに合わせて、列を崩さず向きを変えつつ動き、オニに触れられないように逃げ回る。
- ・オニと親が次のように掛け合いをした後に行われる。

オニ) ジャンジャンノモモコ

親) 桃まだ青い

オニ) 青いのが好きじゃ

親) 取って食え、取って食え